

企業との共同研究の最前線

# 海ごみ、船舶AI、インフラから日蘭交流まで

—第19回大阪大学共同研究講座シンポジウム—

【10/31(金)13時～@大阪大学中之島センター】

## ❖ 概要

大阪大学大学院工学研究科は、企業との連携を緊密に深めながら研究を進化させる「共同研究講座・協働研究所」を設置しており、その成果を発信する「第19回大阪大学共同研究講座シンポジウム」を10月31日(金)に大阪大学中之島センターにて開催します。これまでも関係者のもとより、他の企業、自治体、大学、市民など幅広い参加をいただきました。

今回のテーマは『「地域に生き世界に伸びる」～大阪大学の源流と連携の多様性』で、多面的な共同研究活動をご紹介します。「海ごみ対策」「AIを活用した船舶研究」「インフラと都市の老い」といった身近なテーマの研究実績を示します。さらに、阪大の精神的源流である「適塾」にもさかのぼり、日蘭交流425年の節目に合わせて大阪・関西万博のオランダパビリオンに適塾関係の展示などを行ったことにも触れる講演も用意しており、一層広く親しんでいただけるものにいたします。

つきましては、本イベントの積極的なご周知と当日のご取材・出席をお願い致します。



## ❖ 共同研究講座シンポジウム『「地域に生き世界に伸びる」～大阪大学の源流と連携の多様性』概要

【日時】 10月31日(金) 13:00 ~ 17:15(12:30 開場)

【場所】 大阪大学中之島センター10階「佐治敬三メモリアルホール」

【対象者】 企業、自治体、大学、学生、一般市民など

【プログラム】

< I部 > 大阪大学の「地域に生き世界に伸びる」

特別講演(1)「地域に生き世界に伸びる～大阪・関西サイエンスヒルズ構想」

大阪大学統括理事・副学長 藤尾慈

特別講演(2)「日蘭交流 温故知新」

オランダ王国総領事館商務官 マルティン・フーレ

特別講演(3)「ハラタマ博士と大阪舎密局— 日蘭交流で拓く未来」

大阪大学総長参与・放射線科学基盤機構特任教授(常勤)

深瀬浩一

クーンラート・ウォルテル・ハラタマ博士  
Dr. Koenraad Wolter Gratama (1831-1888)

1866年から1871年までの5年間、日本に滞在。徳川幕府に招聘され、科学教師を務める

長崎の分析窮理所に所属(1868年・明治維新) 1869年から1872年にかけて大阪の舎密局に勤務

日本における初めての体系的な自然科学教育を実施



長崎におけるハラタマ

<Ⅱ部> 連携の多様性

「“海ごみゼロおおさか”未来創造プロジェクト」

大阪大学大学院工学研究科准教授 中谷祐介

大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課課長 定道生

古野電気株式会社船用機器事業部開発設計統括部開発部

スマート水産業開発推進担当部長 西山義浩

「生成 AI 時代の業界イノベーションに向けた海事クラスター丸の取り組み」

大阪大学大学院工学研究科先進海事システムデザイン共同研究講座教授 牧敦生

「インフラと都市の老いを考える社会実装研究を通じた産官学連携」

大阪大学大学院工学研究科教授 貝戸清之

<Ⅲ部> パネルディスカッション～大阪大学の源流と連携の多様性～

パネリスト＝定道生 中谷祐介 西山義浩 深瀬浩一 牧敦生 マルティン・フォーレ

【参加】無料

【定員】130人

【参加申し込み】右記URLから <https://liaison-office.eng.osaka-u.ac.jp/news/003421/>

❖ 取材申込について

※本イベントについて、ご取材いただける際は、上記担当者までご連絡をお願いします。